

舷 想

第21号



海事代理士の日
6月1日

一般社団法人 日本海事代理士会

目 次

1. 巻頭言	2
2. 本部活動報告	3
3. 電子化推進ワーキンググループ	6
4. 海事代理士業務の可能性の模索	7
5. 支部だより	8
6. 海政連だより	18
7. 頒布用紙一覧・発行図書一覧	22
8. 会員動向	23

巻 頭 言

副会長 松 井 直 也

平素より当会の活動にご理解とご協力をいただき、心からお礼申し上げます。

令和の時代が始まりました。私自身は昭和の生まれですので、「昭和」「平成」そして「令和」の3つの時代を経験することになります。以前、海技試験の手続きを依頼して来られた方が平成生まれだったことに驚いたこともありましたが、今度は令和生まれの方の出現に驚くことになるかもしれません。そのためには、あと20年近くも仕事を続けている必要がありますが……。

さて、昨年6月に現在の体制になって約1年経過しました。理事会はもちろん、各委員会や部会も新しいメンバーを迎え、それぞれに与えられた仕事をこなすべく活動を行っています。我々は日本各地に散らばっているという地理的な制約があるため、皆が顔を合わせての会議は予算等の問題もあり、なかなかできにくい状況です。必然的にスカイプを利用しての会議となりますが、皆さん、それぞれの仕事を片付けたあと、自分の時間を削って参加しておられ、その姿勢には本当に頭の下がる思いです。

組織は、「老壮青」のバランスが大切だと言われます。どれかひとつに偏ると、組織を運営するなかでさまざまな弊害が出てくるのでしょうか。当会の理事は、40代50代60代がほぼ同数です。30代がいないのは少々寂しい気がしますが、日頃の支部での活動を通じて、いずれ意欲ある若い方が参画してくれることを望みたいと思います。

当会の目的は、定款の第3条に「海事思想の啓発と国民の権利保護のため、海事代理士の品位の保持及びその業務の改善進歩を図り、もって海事行政の健全な運営の確保に資すること」とあります。品位の保持のためには、会が実施する研修に参加することも一つの方法ですが、何より一人ひとりの自覚が大切だと思います。また、業務の改善進歩には、研修の実施や会からの情報発信が不可欠です。四方を海に囲まれた我が国は、海との繋がりなくしては成り立っていきません。海事代理士は、まさに海に関係する各種手続きを依頼者からの依頼に基づいて行政機関に行うことが仕事です。私も多くの職業のなかからこの海事代理士という職業を選んだ一人として、この仕事に誇りを持ち、依頼者に「お願いしてよかった。」とお願いしていただけるよう、海事法令手続きのプロとして研鑽を重ねていきたいと思ひます。

最後に、これからも当会の活動へのより一層のご協力をお願いして、巻頭のご挨拶といたします。



舷想は会員限定の広報誌です
続きはこちら



<https://jmpcaa.org/company/>

海事代理士の日
6月1日